

令和4年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 上小小学校)

学校番号 70

【様式】

目指す学校像	通いがいい、働きがいい、通わせがよいのある学校 ○学ぶ喜びや友達と関わる楽しさが味わえる学校 ○教える喜びとともに磨きあう充実感が味わえる学校 ○保護者や地域が信頼を寄せ、誇りに思われる学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末を活用した授業改善と「上小小版STEAMS TIME」の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と実行 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、

方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>(現状)</p> <p>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、算数は市平均以上、国語は市平均に少し届かない結果がここ数年続いている。</p> <p>○学力学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べてやや高い。</p> <p>○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、表現したりすることに意欲的に取り組む児童が多い。(課題)</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の「話すこと・聞くこと」については市平均以下で、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の「知識技能」が定着していないことが課題である。</p> <p>○国語や算数への関心は高まっておらず、児童が学習することの意義を実感し、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。</p>	<p>・基礎基本を確実に身に付け、情報端末を活用しながら学びの自律化に向けた授業の改善</p> <p>・学ぶ楽しさを実感できる「STEAMS TIME」の創出</p>	<p>①国語・算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し児童が目標をもって学習できるようにする。</p> <p>②正しく聞き取り、正しく知識を定着させる効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の知識技能の定着を図る。</p> <p>③全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、児童が自らの学習状況を把握し、目標をもって学習できるようにする。</p>	<p>①国語、算数について、全児童に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか</p> <p>②学級ごとに話す聞く力を高める手段を設定することができたか。</p> <p>③児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。</p>	<p>①学校評価に係る教職員アンケートにおいて、「探究的な学びを実践することができた」と回答する教職員の割合が80%以上となったか。</p> <p>②STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて、「学ぶ楽しさを実感できた。」と回答する児童の割合が80%以上となったか。</p>	<p>① 単元ごとに学習への取り組み状況をもとに個別相談を行い、学習内容の定着を図ることができた。</p> <p>② 学校全体では「伝え合う」機会を毎時間意図的に設定することができた。</p> <p>③ 児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、学習に取り組むことができた。</p>	B	<p>「話す・聞く」力を高めるため、思考判断して最終的な表現する力を高めるためにも、伝え合う活動を意図的に授業の中に取り入れていく。</p>
2	<p>(現状)</p> <p>○学校評価(児童)の結果では「仲よく生活している」と「困った時に先生に話を聞いてくれる」の質問に肯定的な回答が96%であった。しかし、保護者は73%と差がある。(課題)</p> <p>○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である</p> <p>○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。</p>	<p>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実</p> <p>・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事の充実</p>	<p>①教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用しながら、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に具体的な支援、相談を行う。</p>	<p>①学校評価に係る児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートにおいて、「一人ひとりへの細やかな教育支援・相談」に関する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。</p>	<p>① 教育相談に関して、保護者との面談を迅速に行い、都度ケース会議を開き情報の共有と短期・中長期支援の目標を明確にして対応した。児童は97%、保護者は91%、教職員は100%が「細やかな教育支援・相談」に関して肯定的評価であった。</p>	B	<p>保護者面談の際、保護者に寄り添った面談を行い、専門性をいかした適切な支援を徹底する。</p>	
3	<p>(現状)</p> <p>○一昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね「児童の心を守るために地域でできること」を熟議し、共有してきた。(課題)</p> <p>○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。</p>	<p>・目指す児童の姿を地域全体で共有するICT活用</p> <p>・「目指す児童像・教師像・学校像」の具現化に向けた取組の推進</p>	<p>①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。</p>	<p>①学校評価アンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。</p>	<p>① 学校からの情報伝達について、保護者の肯定的回答の割合は89%であった。学校HPに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を掲載した。</p>	B	<p>学校運営協議会及びSSNの情報をより分かりやすく、より詳しく発信する。</p>	
4	<p>(現状)</p> <p>○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。</p> <p>○学校課題研究で人間関係づくりの資質・能力を育成する人権教育を研究してきた。(課題)</p> <p>○ICTの活用について、教員間で取組の差がまだ見られる。誰もが学び総括することができる職場環境づくりが求められる。</p>	<p>・一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい学校を作る研修の実施</p>	<p>①エバンジェリストを中心に、毎月ICTの活用方法について、全ての教員が互いのよさを発揮しながら学ぶ研修会を実施する。</p> <p>②学校課題研究において、授業研究を年間3回実施する中で、人権教育についての理解を深め、教職員全体の知識と指導力を高める。</p>	<p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。</p> <p>②全ての教員が、自らの研修目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。</p>	<p>① エバンジェリストを中心に、毎月ICTの活用方法について、全ての教員が互いのよさを発揮しながら学ぶ研修会を実施したことで、95%教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現することができた。</p> <p>② ICTの活用スキル向上、人権意識の向上を学校課題研究、ICT研修、人権研修、学年・ブロックでの学び合い等で高めることができたとの回答が96%であった。</p>	A	<p>「シンGIGAスクール構想」に即した、ICTを有効活用し、さらに深化した探求型学習を実施するため、学校課題研究やICT研修を毎月行い、教職員のICT活用能力を高める。</p>	

学校運営協議会による評価	実施日令和 5年2月14日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	

学力状況が良くても、授業態度はどうなのか。人の話を聞く姿勢、先生とのコミュニケーション能力も高めてほしい。

学習の到達状況について、経年比較できるような客観指標を立てられるとよい。

学校の研修の流れとして全国学テの結果を踏まえた研究ができることよいのではないかと。

「STEAMS教育」などの用語の意味が保護者には分かりにくい。分かりやすくがくぶり等で発信してみてもどうか。

相手の立場に立ち、寄り添う姿勢を基本とし、考え行動する「他者感覚」「人権感覚」を養うことが不可欠と思う。

「学校に行くのが楽しい」に1割いる否定回答の児童の原因を分析し、数を減らす努力をお願いしたい。

自転車も低学年から乗っているようなので、低学年への指導と保護者への呼びかけをお願いしたい。

トイレの改修をもっと積極的に教育委員会に要望してもらいたい。

ホームページに学校運営協議会やKSSNページがあるが、保護者にあまり知られていない。

KSSNを中心に、地域とともに上小小の児童が育っていると感じる。多様な教育活動に、引き続き地域の教育力を採り入れてもらいたい。

より細やかに地域として接していきたい。子どもは地域の希望であり中心だと思います。

この3、4年のGIGAスクール構想のもとで、機器の充実は大変進んだ。

ICT活用能力の向上には、これからも大きな力を注ぐ必要がある。

ICT研修を高めることは教育上の手段・方法として優れたものとして考えているが、人間関係づくりそのものは人と人との関係性なので、この関係性にも重きを置いてもらいたい。